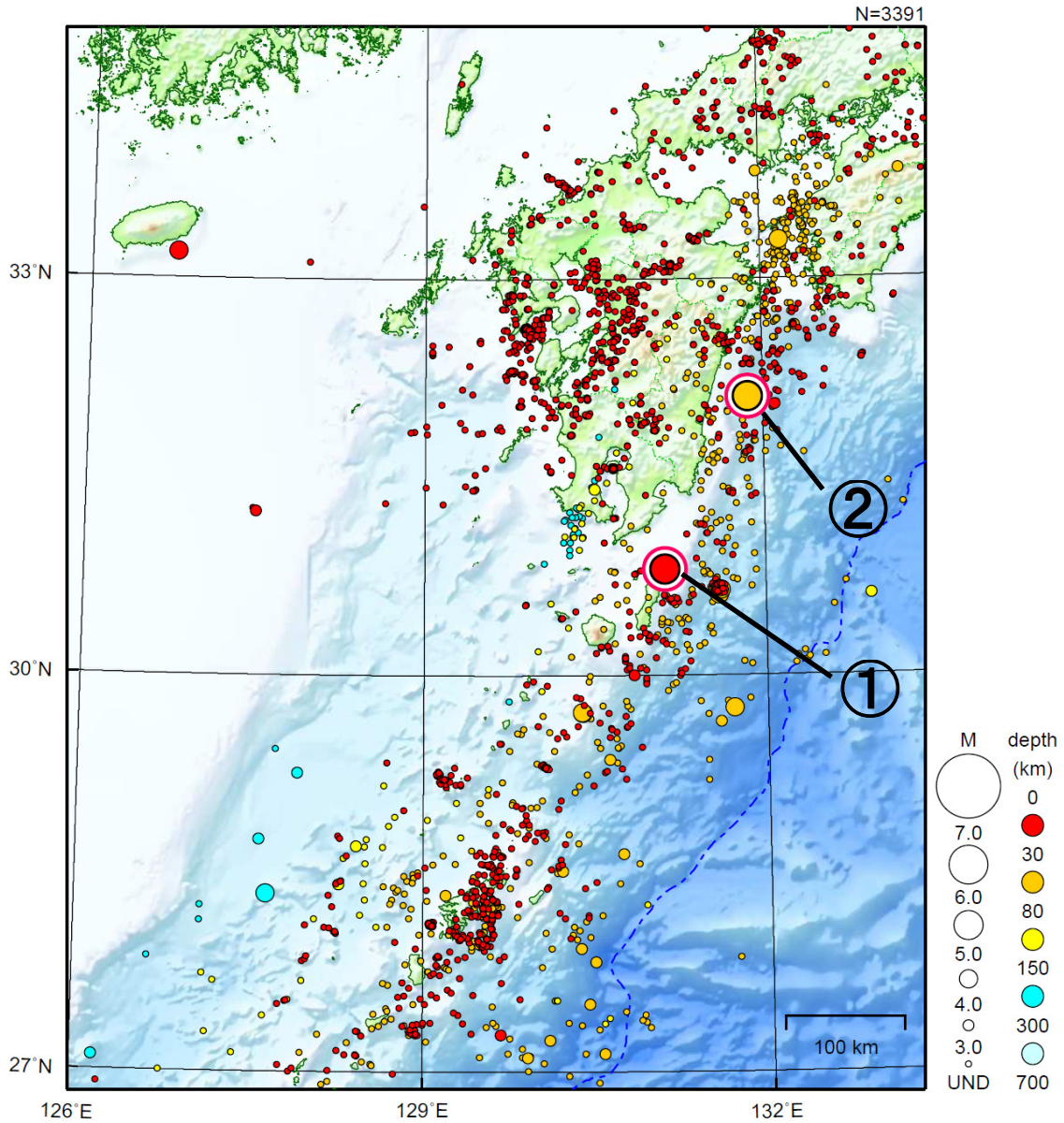


九州地方

2015/08/01 00:00 ~ 2015/08/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOP02v2を使用

- ① 8月17日に種子島近海でM5.0の地震（最大震度3）が発生した。
- ② 8月26日に日向灘でM5.2の地震（最大震度4）が発生した。

（上記期間外）

- ・ 9月4日に奄美大島北東沖でM5.3の地震（最大震度3）が発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

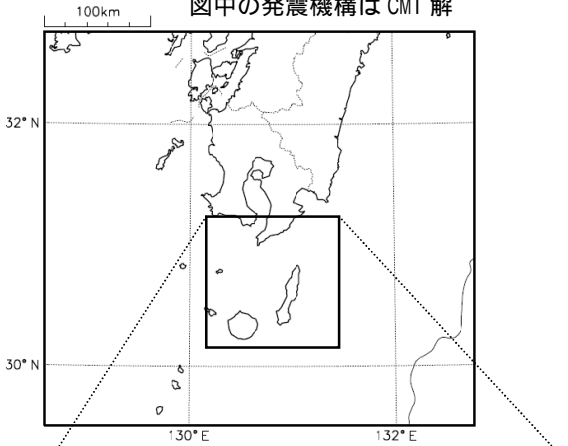
8月17日 種子島近海の地震

震央分布図

(1997年10月1日~2015年8月31日、
深さ0~30km、M 2.0)

2015年8月の地震を濃く表示

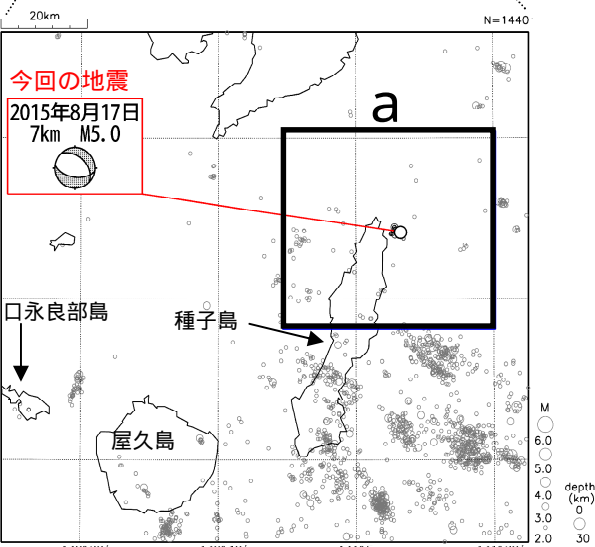
図中の発震機構はCMT解



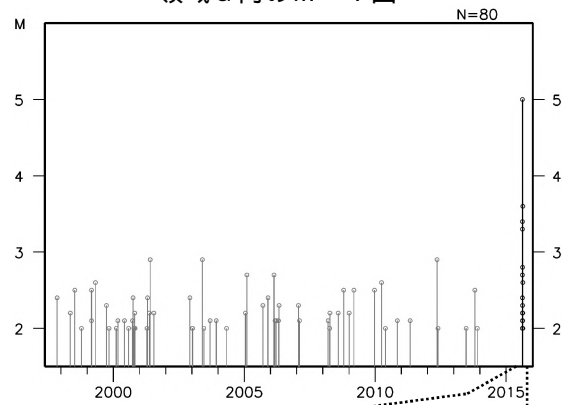
2015年8月17日20時40分に種子島近海の深さ7kmでM5.0の地震(最大震度3)が発生した。この地震は、陸のプレートの地殻内で発生した。発震機構(CMT解)は、北北東-南南西方向に張力軸を持つ正断層型である。その後最大震度1を観測する余震が1回発生した。余震活動はほぼ収まっている。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近(領域a)では、M3.0以上の地震は発生していなかった。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺(領域b)では、M6.0以上の地震が時々発生している。1923年7月13日には、M7.3の地震が発生し、中種子村で住家小破27棟などの被害が生じた。1996年9月9日にはM5.8の地震(最大震度4)が発生し、軽傷者1名、住家半壊2棟などの被害が生じた(「日本被害地震総覧」による)。1996年10月18日のM6.4の地震(最大震度4)では、種子島で17cmの津波を観測した。

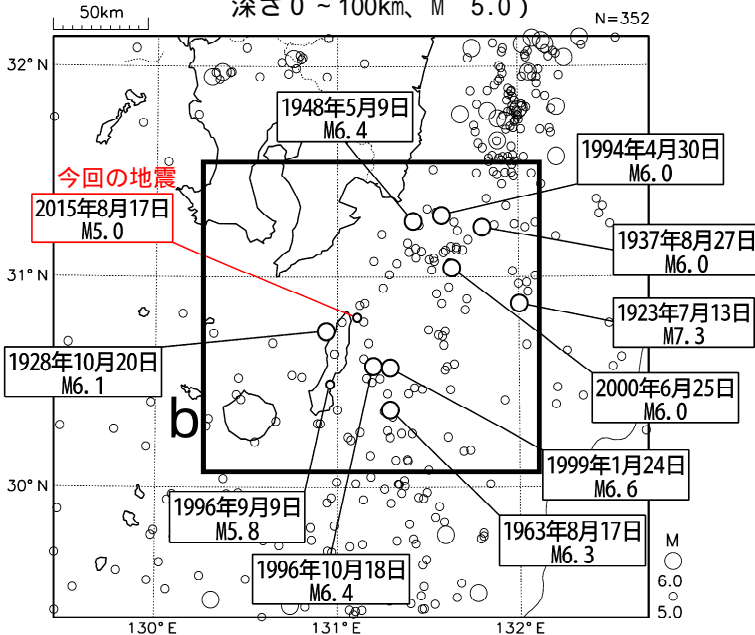


領域a内のM-T図

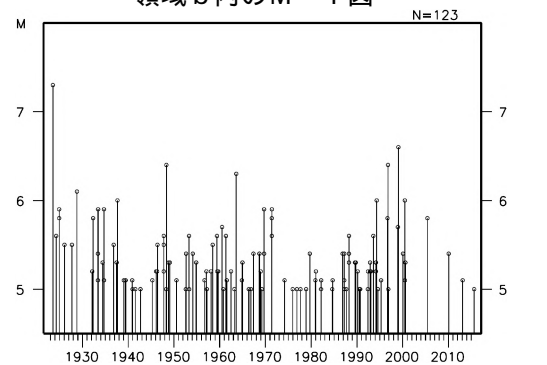


震央分布図

(1923年1月1日~2015年8月31日、
深さ0~100km、M 5.0)



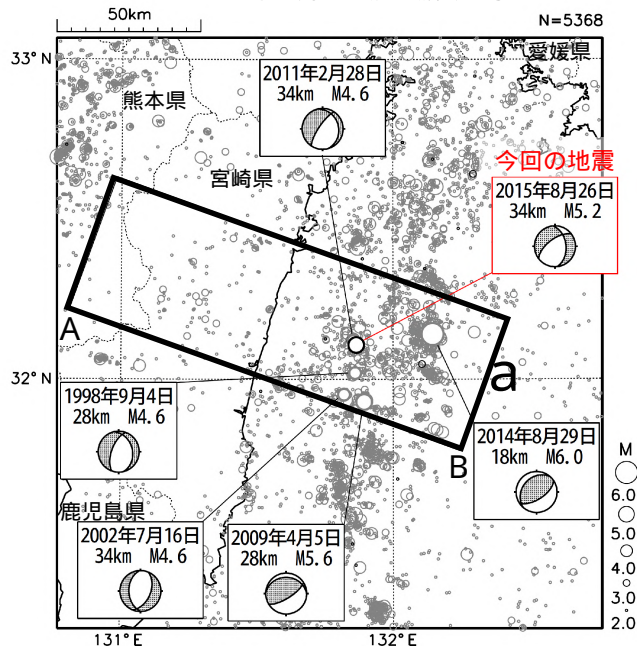
領域b内のM-T図



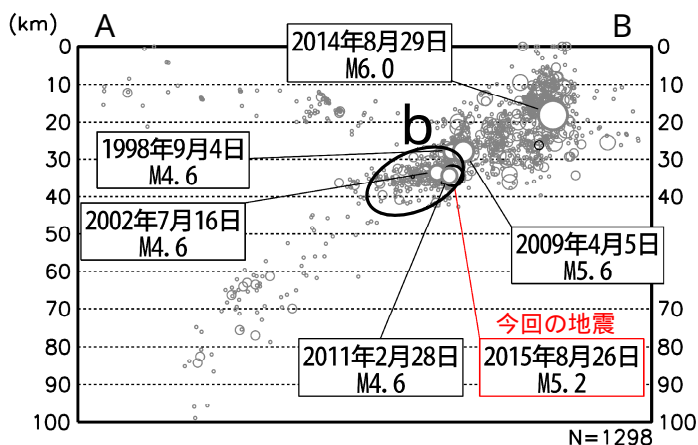
8月26日 日向灘の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2015年8月31日、
深さ0～100km、M 2.0)
2015年8月の地震を濃く表示

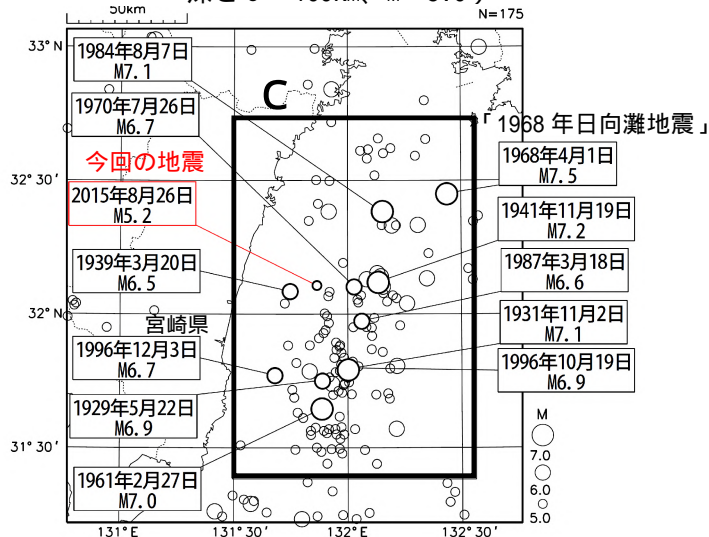


領域a内の断面図 (A - B 投影)



震央分布図

(1923年1月1日～2015年8月31日、
深さ0～100km、M 5.0)



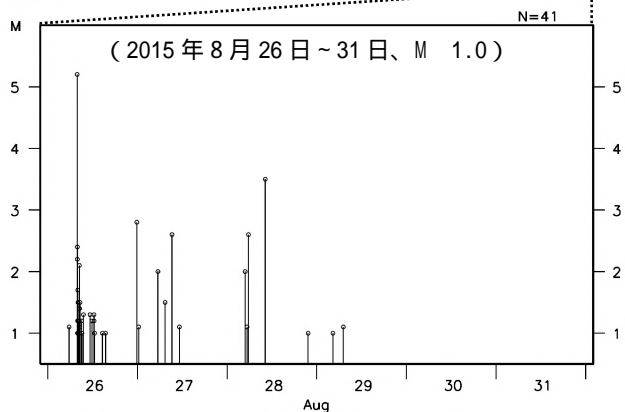
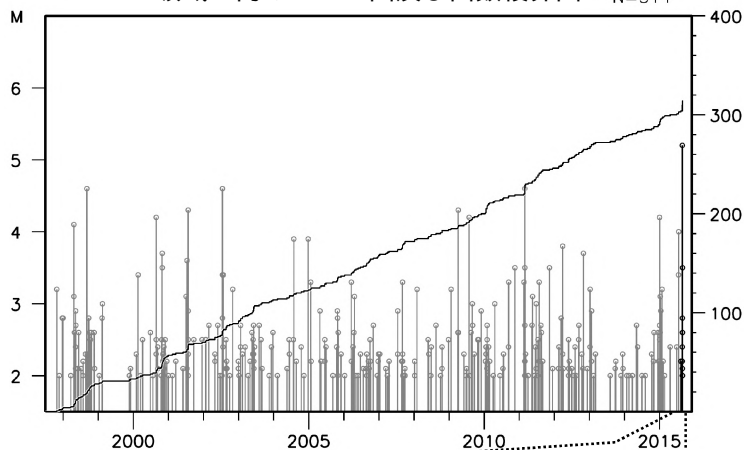
2015年8月26日07時51分に日向灘の深さ34kmでM5.2の地震 (最大震度4) が発生した。

この地震は、発震機構が西北西-東南東方向に張力軸を持つ型で、フィリピン海プレート内部で発生した。その後、震度1以上を観測した余震が1回発生した。余震はほぼ収まっている。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近 (領域b) は、M4.0以上の地震がしばしば発生するなど地震活動が活発な領域である。

1923年1月以降の活動を見ると今回の地震の震央周辺 (領域c) では、M6.0以上の地震が時々発生している。最近では1996年10月19日にM6.9の地震 (最大震度5弱)、同年12月3日にM6.7の地震 (最大震度5弱) が発生し、ともに高知県で十数cmなどの津波を観測している。

領域b内のM - T図及び回数積算図



領域c内のM - T図

